

第3学年 国語科学習指導案

日 時：平成27年11月24日（火）第4限

場 所：

指導者：

1. 題材名 学びて時にこれを習ふ―「論語」から

2. 題材を貫くテーマ

「論語」を自分の生活と重ねて読み、選んだ言葉を簡単な文にまとめることができる。

3. 題材について

①生徒について

3年で唯一の漢文教材である。2年時の漢詩の学習では、内容の読み取りが難しいことから「分からない」と感じる生徒が多かったが、漢詩が詠まれた背景について具体的に説明し、詩に詠まれている情景や心情に関心をもって学習を進めることができた。生徒の実態として、書くことに対する抵抗は少ないので、作品に興味・関心をもつことができれば、学習した内容から作品に対して自分の感じたことや考えたことを文章に書くことはできる。一方で、返り点の役割など漢文の基本的なルールが知識として定着しておらず、苦手意識は少なからず抱いていると考えられる。

②題材について

本題材は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の（ア）「伝統的な言語文化に関する事項」の（イ）「古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと」に関連するものである。題材である「論語」は、中国の孔子の言行および門人らとの問答を中心に編集されたものであり、多くの人々の心のよりどころとなっている言葉の出典のひとつである。教科書に取り上げられている言葉は、一方では孔子の生き方やものの考え方として捉え、他方では自分の問題として考えられるようなものばかりである。本題材の学習を通して、「論語」の言葉から自分の体験をふり返り、実感として「論語」の言葉を捉えられるようにしたい。

③指導について

指導にあたっては、返り点など漢文のルールをまとめた資料を用意する。本文の内容をより深く理解し、漢文に親しみを持ちやすくするために、それぞれの言葉の現代語訳から意識を考えるようにする。ワークシートには書き下し文、現代語訳を載せておき、それらを見ながら同じワークシートに意識を書かせることで、1枚のワークシートで学習内容が全てわかるようにする。本文の内容理解や深化課題の場面ではペア活動やグループ活動を取り入れ、意見の交流ができるようにしたい。

4. 題材の目標

- ・漢文の言い回しや語句の意味に注意しつつ、親しみながら「論語」を読もうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- ・「論語」の歴史的背景について知り、孔子のものの見方、考え方を知ることができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)
- ・気に入った言葉を引用し、自分の体験を入れながら簡単な文章で紹介することができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5. 題材の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・技能・理解
・漢文の言い回しや語句の意味に注意して「論語」を読み、親しみを持つようとしている。				・「論語」の歴史的背景と、孔子のものの見方、考え方を知っている。 ・気に入った言葉を引用し、自分の体験を入れながら簡単な文章で紹介している。

6. 指導と評価の計画（全2時間）

時	ねらい	評価規準					重点
		関・意・態	話・聞	書	読	知・理・技	
1 (本時)	・漢文の言い回しやなどに注意しつつ、親しみながら「論語」を読もうとする。 ・「論語」の歴史的背景や書かれた言葉の意味を知ることができる。	・漢文の言い回しや語句の意味に注意しつつ、親しみながら「論語」を読もうとしている。				・「論語」の歴史的背景を知り、言葉の意味や孔子のものの見方や考え方をすることができる。	主に習得
2	・「論語」から選んだ言葉について、自分の体験と結びつけながら、簡単な紹介文を書くことができる。					・「論語」から自分の生活をふり返り、簡単な紹介文を書くことができる。	主に活用

7. 本時の学習指導

①本時の目標

- ・漢文の言い回しや語句の意味に注意しつつ、親しみながら「論語」を読もうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- ・「論語」の歴史的背景を踏まえた上で、言葉の意味や孔子のものの見方や考え方をすることができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

②学習課題

(1) 習得させること

- ・「論語」の歴史的背景と孔子の言葉の意味

(2) 予想される生徒のつまずき

- ・現代語訳の意識が、言葉の言い換えだけで終わっている。
→対応する言葉を探そうとするのではなく、孔子が伝えようとしていることを考えさせる。

(3) 深化課題

- ・「論語」の現代語訳を、もっとわかりやすい訳に書き直そう。

③予習について

- ・教科書 P.190、191 の脚注を参考に、論語の言葉の現代語訳の穴埋めをやってくる。
- ・訓読についてまとめたプリントを読んでくる。

④展開

	教師からの説明 課題提示	主な発問と 予想される生徒の反応	教師の働きかけ（・） と評価（※）
教える 13分	1. 説明		
	≪学習課題≫ 「論語」に書かれた言葉の意味を知ろう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・訓読の基本事項を説明する。 ・「論語」の歴史的背景、書かれている内容などを説明する。 ・書き下し文を音読し「論語」に書かれた言葉の現代語訳を話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予習プリントを見ながら説明を聞く。 ・資料動画とワークシートを見る。 ・範読の後に斉読をする。 ・ワークシートの現代語訳を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予習プリントを簡潔に説明する。 ・デジタル教科書の資料動画を見せ、説明を加える。 ・漢字の読みや歴史的仮名遣いに注意して読むように指示する。
考えさせる 30分	2. 理解確認（10分）	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書やワークシートを見ながら交互読みをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交互読みの目的（音読が正確にできるかどうか、現代語訳が分かっているかどうかを確認するため）を伝えた上で行う。 ※漢文の言い回しや語句の意味に注意しつつ、親しみながら「論語」を読もうとしているか。 （観察）【関・意・態】
	3. 理解深化（20分）	「論語」の現代語訳を、もっとわかりやすい訳に書き直そう。	
		<ul style="list-style-type: none"> ・班で1つの言葉を担当し、わかりやすい訳を考える。 【予想されるつまずき】 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の言い換えだけで終わっている。 ・考えた訳をホワイトボードに記入し、黒板に貼って発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びて時にこれを習ふ、…」とその訳を例示し、そのような訳にした理由をモデルとして提示する。（支援） ・「孔子が伝えようとしていることは何だろうか？」という補助発問を投げかけ、考える視点を与える。（支援） ※「論語」の歴史的背景を踏まえた上で、言葉の意味や孔子のものの見方や考え方を知ることができる。 （観察・ワークシート）【伝国】
自己評価 2分	4. 自己評価 自己評価プリントに、本時の学習のふり返りを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習でわかったこと、わからなかったことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書を使って簡単に授業の内容を振り返る。

第3学年 社会科（公民的分野）学習指導案

日 時：平成27年11月24日（火） 第5限
場 所：
指導者：

1. 単元名

第3編	私たちの生活と経済		
第3章	財政と国民の福祉	1	政府の仕事と財政

2. 単元を貫くテーマ

国民生活と福祉の向上のために国や地方公共団体はどのような経済活動を行っているか。
--

3. 単元（題材）について

①生徒について

本学級の生徒（計20名）は、今年度当初に行った標準学力調査の結果から、4観点すべてにおいて全国平均を10ポイント以上上回り、「関心・意欲・態度」については、入学当初から比較すると22ポイントも高まってきている。さらに「知識・理解」の上回り幅が高く、『教えて考えさせる授業』の成果だといえる。しかし、昨年度との比較で「技能」において3ポイント減少したこと、正答率が50%に満たない生徒が7名いることなど、「知識」「技能」の習得がまだ不十分であることが課題として明らかになった。そこで、常に目標（習得させる内容）を意識させながら「教える」ことに重点を置き、教わった内容を用いて教え合いをする生徒の姿を目指して指導をしてきた。

②単元構成について

本単元は、公民的分野2－（2）イ「私たちと経済」である。ここでは、個人、企業や国、地方公共団体の経済活動を扱い、経済活動、市場経済、財政の役割について考えさせることなどを主なねらいとしている。中項目イ「国民の生活と政府の役割」の学習では、主に財政について学習する。国や地方公共団体が果たしている役割や、財源の確保と配分という観点から財政の役割、租税の意義と役割について考えさせるとともに、国民の1人として納税の義務について理解させることを主なねらいとしている。

本時は「公正の視点をもとに税制度を理解する」というテーマで、主たる考え方に基づいた税制度の特徴を理解するとともに、公正の観点から税や財政の意義について説明させたい。また、少子高齢化や経済成長に伴い変化してきた財政収支の状況や税収の変化を踏まえて、本時で習得した税制度の特徴をもとに、一番身近な「消費税」を題材にして、税の負担者として自分の将来と現在の経済に対する関心を高め、経済的な事象をとらえる見方や考え方の基礎を養うとともに、現代社会における様々な課題を解決しようとする態度を育てる学習になると考える。

③指導について

『教えて考えさせる授業』の手法を取り入れ、「短時間で効果的に教えるためにはどうしたらよいか」をテーマにした授業づくりを実践してきた。「教える」時間の短縮を図るために、ワークシートを予習に位置付けること、目標（習得させる内容）の設定をより具体化するために、習得すべき内容を精選して、常に目標に立ち返りながら授業を展開したことで、習得したことを活用して課題に取り組もうとする意識が高まり、協同的な学習による活動がより活発となった。授業前に予習したワークシートや本時の内容を確認する姿や協同的活動に積極的に参加する姿が増えたことは、本校の研究に取り組んできた成果と考える。

本単元でも、市場経済で起こる不都合を正す役割が財政の意義であることや現代社会における諸問題から財源の確保と配分について、効率と公正の観点から考えさせたい。そして、習得した見方考え方をもとに、単元を貫くテーマである国や地方公共団体が行う経済活動や財政が国民の安全で快適な生活を実現するために行われているという概念にせまりたい。

4. 単元の目標

- ・国や地方公共団体の経済活動や財政に関心を持ち、それを意欲的に追求し、捉えようとする。
[社会的事象への関心・意欲・態度]
- ・国や地方公共団体が果たす役割について、公正の視点を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現することができる。
[社会的な思考・判断・表現]
- ・財政の役割や国や地方公共団体の経済活動についての様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりすることができる。
[資料活用の技能]
- ・日本経済の抱える課題について、公正の視点を中核とした考察の仕方をもとに、国や地方公共団体の経済活動や財政の特色について理解し、その知識を身に付けることができる。
[社会的事象についての知識・理解]

5. 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に対する国や地方公共団体の経済活動や財政について意欲的に追究し、捉えようとしている。	市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に対して国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現している。	財政の役割や国や地方公共団体について、様々な手段を用いて情報を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	日本経済の抱える課題について理解するとともに、社会資本の整備、環境保全、消費者保護、租税の意義と役割及び納税の義務について理解し、その知識を身に付けている。

6. 指導と評価の計画（全7時間）

時	ねらい	評価規準				重点
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
1	○財政のはたらき ・財政の役割とその収支について説明できる。				財政の役割、歳入と歳出の項目の意味を説明している。	主に習得
2 (本時)	○国の収入を支える税と国債 ・「公正」の視点から、税の意義と特徴が説明できる。				税の意義や特徴を公正の考え方をふまえて説明している。	主に習得

3	○生活を守るはたらきと社会資本の整備 ・安全で快適な生活のために、国などが果たす役割が説明できる。				人々の生活を向上させるために国などが果たす役割を説明している。	主に習得
4	○社会保障のしくみと財源 ・財政における問題点を理解し、社会保障のしくみが説明できる。				社会保障制度の内容と財政における問題点を説明している。	主に習得
5	○高齢社会における福祉の充実と生きがい ・社会保障制度の問題点をふまえて、介護保険制度のしくみが説明できる。		少子高齢化の現状をふまえて、課題と解決方法を考えて、説明しようとしている。		介護保険制度を中心とした福祉の現状を説明している。	主に習得
6	○景気の動きとその対策 ・景気変動が起こるしくみを理解し、国や日本銀行の行う安定化政策が説明できる。				景気変動が起こり、国や日本銀行が安定化政策を行うことを説明している。	主に習得
7	【チャレンジ公民】 ○税金を増やすことは必要か ・税金に関する課題を理解して、財政のあり方について考え、まとめることができる。	財政のあり方に関心を持ち、よりよい税制度を考えようと意欲的に考察している。		資料をもとにして、よりよい結論を導くために、意見をまとめている。		主に活用

7. 本時の学習指導

①本時の目標 「公正」の視点から、税の意義と特徴が説明できる。

[社会的事象についての知識・理解]

②学習課題

(1) 習得させること

ア「公正」の考え方をもとに大きく2つの税負担のあり方があること。

・支払い能力に応じて負担する → 累進課税制度

・利益を受ける人が負担する

イ2つの考え方が直接税と間接税の特徴につながっていること。

(2) 予想される生徒のつまずき

- ・それぞれの短所を考えると、公正な税負担であると言えないかもしれないという疑問が生じてしまい、理解の妨げになる。

(3) 深化課題

- ・いまの消費税制度は、公正な税負担と言えるかどうかを検証してみよう。

③予習について 教科書 P.162～163 を見ながら、前時に配布したワークシートをする。

④展開

	教師からの説明・課題提示	主な発問 (◎) と 予想される生徒の反応 (・)	教師の働きかけ (・) と評価 (※)
教 え る (15 分)	<p>1. 予習の確認</p> <p>①前時に配布したワークシートを班で確認する。</p> <p>②黒板に分かったところを書き入れる。</p> <p>③本時の学習課題を確認する。</p>		<p>・前時の「主な税金の種類」「直接税と間接税のしくみ」も確認させる。</p>
	<p>【本時の学習課題】</p> <p>① どのような考え方に基づいて税金が集められているか。</p> <p>② 2つの収税方法にはどのような特徴があるか。</p>		
	<p>2. 説明</p> <p>①公正の見方考え方によって異なる税制度について説明する。 *習得させることア</p> <p>②集められた税金は、すべての国民の生活と福祉の向上のために使われていることを説明する。</p>	<p>・提示してある公正の意味から、それぞれの見方考え方が正しいことをイメージする。</p> <p>・累進課税の制度の説明によって「稼ぎすぎると損をする」という考え方が生まれる。このことから公正な制度と言えるかどうかの疑問を抱く。[つまずき]</p> <p>◎集めた税金は何に使われるの？</p> <p>・学校、道路、上下水道など(前時の学習から答える。)</p>	<p>・「公正」の意味を提示しておく。</p> <p>・教科書 P.162②を使って具体的な例を挙げて考えさせる。</p> <p>・払えばなし、集めればなしではなく、国民の監視の必要性や情報公開の重要性があることを補足する。</p>

考 え さ せ る (30分)	3. 理解確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ① それぞれの考え方の長所と短所を説明しよう！ ② どちらの考え方に基づいた税金か分類してみよう！ </div>		
	①ペアで説明し合う。 ②個人→ペアで確認する。 *習得させること <input type="checkbox"/>	・それぞれの税制度についての長所と短所を説明する。 ・それぞれの考え方が、直接税と間接税につながっていることに気づく。	・黒板やプリントなどに頼らず、できるだけ自分の言葉で説明するように促す。 ・ワークシートから読み取らせる。 ※公正の視点を意識して、税制度の特徴を説明できたか。 (観察・発表) 【知識・理解】
考 え さ せ る (30分)	4. 理解深化 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ◎いまの消費税制度は、公正な税負担と言えるかどうかを検証してみよう。 ①「公正と言えるところ」と「公正と言えないところ」を出し合おう。 ②今後どのような制度になればよいのかを考えてみよう。 </div>		
	①個人→班 ②役割を決めて班で話し合う。 発表者一人を班に残して、他の班の発表を聞きに行く。 (2ローテ)	・間接税の特徴から見出すことができる。 ・短所ばかりに目をつけてしまいプラスの考え方にならない。 ・公正の視点を忘れて、個人の損得ばかり考えてしまう。	・「消費税って直接税、間接税どっち？」とヒントを出す。 ・既習事項や資料プリントを活用するように声かけをする。
自 己 評 価 (5分)	5. 自己評価	・自己評価カードに わかったこと わからないこと 質問 などを記入する。	・自己評価カードに記入させる前に、板書を利用して学習した内容をおさらいする。

